

## PRAEVIDENTIA DAILY (6月5日)

## 昨日までの世界：カナダ中銀据え置きのとカナダドル安

昨日は、全般的に小動きの中、カナダドルが軟調だった一方、豪ドルが強含みとなった。カナダドルは、対米ドルで最近の軟調が続く中、カナダ中銀金融政策決定会合後の声明文で、政策金利は予想通り据え置きだった一方、先行きのインフレ見通しについて、実勢インフレ率が高まったにも拘らずインフレ見通しを巡るリスクは従来と同様に下振れリスクの方が大きい、とハト派バイアスを維持したことから、カナダドルは続落した。

他方、豪ドルは、豪1Q GDPが前期比+1.1%と前期および市場予想を上回ったことから発表後に上昇したが、一部の4月分統計が悪化を示している中で今後も高成長が持続するかは不透明であることから、すぐに反落した。とはいえ、対米ドルでは強含みが続いている。

ドル/円は、米長期債利回りと共に持ち直し傾向が続き、概ね102円台後半で強含み推移となった。米経済指標では、ADP民間雇用統計が+17.9万人と前月および市場予想を下回る伸びとなり、一時ドル売りとなったが、その後発表のISM非製造業景況指数が逆に56.3と前月および市場予想を若干上回り、雇用指数も前月の51.3から52.4へ上昇したことからドル反発に繋がった。

## 主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	-0.01	-0.01	+0.00	-0.02	+0.00	+0.03	+0.2	+0.2	-0.0	-0.4
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.2	+0.00	-0.01	-0.01	+0.02	+0.03	+0.00	+0.0	+0.2	-0.4	-0.00
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.1	+0.02	+0.02	-0.01	+0.05	+0.05	+0.00	-0.3	+0.2		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.1	+0.06	+0.05	-0.01	+0.05	+0.06	+0.00	+0.2	-0.7	-0.3	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.1	+0.01	+0.01	-0.01	+0.06	+0.06	+0.00	+0.2	-0.7	-0.3	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.3	+0.00	-0.01	-0.01	-0.01	+0.00	+0.01	+0.2	-0.0	-0.3	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

## きょうの高慢な偏見：マリオはユーロ統落の夢を見るか？

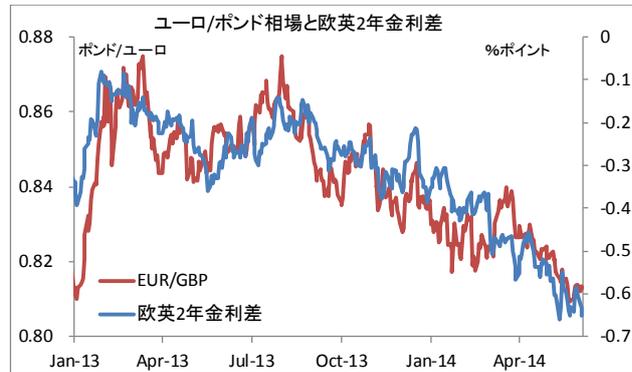
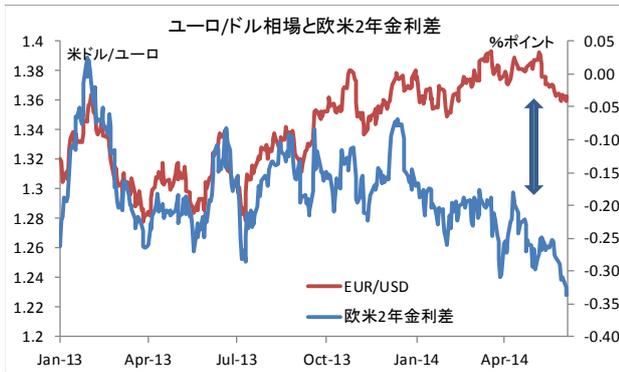
## きょうの注目通貨：EUR↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 4 月貿易収支・豪ドル	10:30	+7.31 億	+5.10 億	
佐藤日銀審議委員発言	10:30			(追加) 緩和消極派
中国 5 月 HSBC サービス業 PMI	10:45	51.4		
G7 首脳会合終了	16:00			
英 BoE 金融政策決定・政策金利	20:00	0.50%	0.50%	資産購入も 3750 億ポンドで据置
ECB 金融政策決定・政策金利	20:45	0.25%	0.10%	21:30 から Draghi 総裁記者会見
同・中銀預金金利		0.00%	-0.10%	短期金利の下限を規定
同・限界貸付金利		0.75%	0.60%	短期金利の上限を規定
米新規失業保険申請件数	21:30	30.0 万件	31.0 万件	
Kocherakota ミネアポリス連銀総裁 発言	2:30			ハト派、投票権あり

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は ECB 追加緩和が最大の注目で、市場では 0.15%ポイントの利下げと中銀預金金利（短期金利の下限を規定）のマイナス 0.1%への引下げがコンセンサスとなっている。当社も利下げ予想だが、中銀預金金利のマイナス化は副作用が不透明で、そこまでの実験をやらねばならないほど事態は切迫していないとみており、政策金利の引下げのみに留まるようだと、前回政策理事会以降かなり下がってきたユーロは反発するリスクがある。これらの政策は 20:45 に発表される。とは言え、その後 21:30 開始の Draghi 総裁記者会見でその他の緩和策（大規模・長期の LTRO、不胎化の停止、資産担保証券（ABS）購入策）が発表されたり、次回以降の追加緩和が示唆される可能性が高く、再びユーロ安に向かうだろう。逆に、利下げのみに留まり、次回以降の追加緩和に含みを持たせないようだと、ユーロは大きく反発に向かうリスクがある。当社は、ユーロの持続的低下を促すため、ECB は今回の利下げだけでなく先行きの追加緩和措置を示唆するとみており、ユーロ安基調が続くとみている。

なおユーロ相場は対ドルでは過去連動性が高かった欧米 2 年金利差と水準的に大きな乖離が生じているものの、足許の米国有利化方向とユーロ/ドル下落の方向性は一致しているほか、ユーロ/ポンドはほぼ欧英 2 年金利差とほぼ 1 対 1 で連動してユーロ安となっている（下図を参照）



## ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号  
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641